

平成29年度 施策評価シート

基本目標	IV	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	460	安心して子育てができ、子ども・若者が夢や希望をもてるまちをつくる
施策	463	支援が必要な子ども・若者が安心して暮らせるしくみをつくる。
施策の目標	虐待の発生を予防するための支援の強化、関係機関による支援体制の確立など、まち全体での虐待防止の環境が整っています。また、困難を抱えた子どもと家庭への支援体制が充実することで、次代を担う子ども・若者たちが、安心して健やかに成長しています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「児童虐待を疑ったときの通報先を知っている」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	26.7	29.3	31.9	34.5	37.0	39.6	42.2	44.8	47.4	50.0
実績	26.7									

指標名	「子どもに必要な支援が行き届いている」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	45.5	46.6	47.7	48.8	50.0	52.0	54.0	56.0	58.0	60.0
実績	45.5									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
<p>平成28年度の計画では 社会的相続を受ける機会の少ない子どもに対し「生きる力」を育成する場である仮称「子どもの家」(子どもの未来応援基金パイロット事業)を誘致し、事業実施に協力していく予定であったが、個人情報提供についての課題があり、事業開始には至らなかった。</p> <p>平成29年度は、区の子どもの貧困対策の実態把握を行うために、平成28年に参加した「東京都子供の生活実態調査」の詳細分析を行い、取組方針を策定することにより、子どもの貧困対策の推進のための一助とする。</p>	H28	6
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
E	子どもの未来応援基金パイロット事業の誘致には至らなかったため

評価	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
<p>平成28年度の子どもの未来応援基金パイロット事業の誘致事業は廃止とする。</p> <p>また、子どもの貧困対策の推進には、実態把握が必要であり、その第一歩である詳細分析及び方針の策定は重要であるため、平成29年度は、内容を一新し、平成28年度に行われた「東京都子供の生活状況実態調査」の墨田区データの詳細分析を行うことにより、子どもの貧困対策の推進を目指す。</p>	
【今後の具体的な方針】	
<p>平成29年度に「(仮称)子どもの貧困対策推進のための取組方針」を策定し、策定後は方針に基づき、関係各課において対策事業を進めていく。</p>	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	すみだの子どもの未来応援事業費	6	<p>子供の未来応援基金パイロット事業（仮称「子供の家」）を誘致し、事業実施することにより、社会的相続を受ける機会の少ない子供に対し「生きる力」を育成する。</p> <p>そのことにより、支援が必要な子どもが安心して暮らせる仕組みづくりに寄与する。</p>		↗	<p>廃止</p> <p>平成28年度</p>
2						
4						
3						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	463	支援が必要な子ども・若者が安心して暮らせるしくみをつくる	部内優先順位					
事務事業	すみだの子ども未来応援事業費					1		
事業概要	子供未来応援基金パイロット事業(仮称)子どもの家を本区に誘致する。					主管課・係(担当)		
						生活福祉課生活支援係 03-5608-6289		
施策への 関 連 性	子供の未来応援基金パイロット事業(仮称「子供の家」)を誘致し、事業実施することにより、社会的相続を受ける機会の少ない子供に対し「生きる力」を育成する。そのことにより、支援が必要な子どもが安心して暮らせる仕組みづくりに寄与する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等) 民間活動誘致のための支援であるため、区が行う必要がある。 区が行っている類似事業については、児童館事業等がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	(仮称)子供の家を誘致し事業開始を支援する。				単 位	軒
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1	28	目 標	1			
				実 績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標						
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	日本財団の区内計画予定数による。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
			目 標					
			実 績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標								
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
財 政 面 (決算額) (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	6							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 事務費のみの執行				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	未把握				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
民間活動誘致の支援であるため区が実施する必要がある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしていない				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
子どもの貧困対策は喫緊の課題であり、有効な対策の一つである。		1	2	2	1
3 効率性・経済性		<p>必要性等が失われたため廃止</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	未検討				
実施工程やコストに改善の余地がないか	未検討				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定				
判断理由					
中間・最終年度の講評	子供の未来応援基金パイロット事業（仮称「子供の家」）については、個人情報等の問題があり事業実施は困難である。				
今後の方向性	平成29年度は、平成28年度に行われた「東京都子供の生活状況実態調査」の墨田区データの詳細分析を行うことにより、子供の貧困対策の推進を目指す。				